



七沢にお住まいの
高橋増次さん(77才)
は、45年前からしめ
縄づくりを始め、現在では、その技術を伝
えるため、市内各地で講師を務めています。
昨年、公民館で開催されたしめ縄づくり
教室には、約50人が参加しました。

伝統を紡ぐ

す。あけましておめでとうございます。ご家族おそろいで新年をお迎えることと、お喜び申し上げます。今年が皆さまにとって、輝かしい希望にあふれた年でありますように心から願っております。

さて、昨年は、8月の異常なまでの長雨や記録的な降雨量となった台風21号など、農作物の生育に大きな影響を及ぼす天候が続きました。

また、農業者の高齢化、後継者不足など、農業を取り巻く環境は、依然として、大変厳しい情勢下にあります。

こうした中、本農業委員会では、昨年3月に作成しました「農地等の利用の最適化の推進に関する指針」に基づき、農業委員と農地利用最適化推進委員が、一丸となって、日々、遊休農地の発生防止・解消、担い手への農地利用の集積・集約化、新規参入の促進を図るべく、積極的な活動を行っているところでございます。

私たち委員一人一人が、農業者の代表としての自覚と信念を持ち、農業経営のより一層の向上を図られるよう、この1年、取り組んでまいり所存でございます。

農業者をはじめ、市民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。年頭のあいさつといたします。



厚木市農業委員会
会長 堀池 春夫

2面 都市部で生きる畜産農家

新鮮で安全な畜産物は、畜産農家の工夫と環境への配慮で出来ています。



3面 農業まつり開催

昨年11月、農業まつりが開催され、約7万5千人が来場しました。



4面 地元から安心を子どもたちに

市の給食は、月2回地元の安心安全な野菜を使っています。



主な内容

農業委員編集手記

(農政担当理事 木原 淳子)

例年、秋になると、各地で収穫体験が行われております。私の地元の愛甲小学校では、お米を育てる授業の一環として、稲刈りが行われました。かかしも子どもたちが上手に作製し、きっとスズメもびっくりして、逃げ出したことでしょう。

子どもたちにとって、食の大切さと農業の楽しさを知るきっかけとなったことと思います。

「あつぎ農委だより」が、皆さまにとっても、農業の楽しさを知るきっかけとなり、地産地消の一助となれば幸いに存じます。

都市部で生きる畜産農家

生産地と消費地が近いため、新鮮な畜産物を届けることができるのが厚木市の強みです。しかし、畜産業は、臭気や環境

の問題とは切り離せません。市街地の近くで畜産業を営む方は、どのような取り組みをしているのでしょうか。



清潔に保たれた江戸屋養豚場の畜舎

新たな都市型養豚モデル

依知地区で古性忠一さん(71才)が経営する江戸屋養豚場では、住宅地が隣接しているため、毎日の清掃に加え、消臭剤を小まめに入れ替えることで、臭気対策を行っています。

新規就農者の紹介

平成28年に三田で32才の畑を借りて就農した、王子にお住いの水落隆博さん(31)にお話を伺いました。

その後は、JAあつぎの農業塾に通いながら、地元農家の方の下でも研修を受けて、平成28年4月に就農しました。

以前の野菜づくりに興味があり、5年前に厚木に引っ越した時から、家庭菜園をやっていました。もっと農業と向き合いたいと思いい、市民農園を借りたところ、野菜づくりがいつそう楽しくなってきたので、農家として就農することを決意しました。

苦労していることは？ エダマメやスイカ、サトイモなど、作った作物は、夢末市やグリーンセンターで販売しています。品質の向上を目指し、いろいろと工夫していますが、なかなか簡単にいかず、日々勉強しています。



また、今後は、収穫したナスを使い、漬物を作るなど、加工食品という新しい分野に挑戦していきたいとも思っています。

こうしたきめ細やかな衛生管理が評価され、衛生管理向上の取り組みについての基準を定めた「農場HACCP認証」を県下で第1号として受け、安心安全で、より新鮮な豚肉を消費者に近い立地を活かし提供する、新たな都市型養豚モデルを確立しています。

地域と生きる

一方、小鮎地区で養豚業を営んでいる有限会社白井農産では、豚舎のふんを利用し、自動発酵装置で堆肥を作り、地域の農家の方に利用してもらったり、排水を浄化処理してから公共下水に流したりするなど、環境への配慮をしています。同



白井スミ子さん

社の白井スミ子さん(78才)は、「こうした取り組みへの理解が広がり、夢末市の直売所などで購入される市民の方が増え、大変うれしく思っています。」と語っています。厚木市の安心安全で新鮮な畜産物は、農家の方々の様々な工夫と日々の努力で、生産されています。

農地の貸し借りってどうやるの？

あゆこちゃん、農業経営を拡大するために、どこか近くで農地を借りたいんだけど、どうすればいいだろう？

あゆこちゃん、それなら利用権の設定をしたらどうかな。

おにいさん、利用権の設定って？

あゆこちゃん、農地の貸し借りを促進して、農地の集積を進めていくための制度なんだ。

厚木市マスコットキャラクター



あゆこちゃんにきいてみよう!

あゆこちゃん、貸し手と借り手が一緒に、貸借する期間を決めて、貸し借りをするんだよ。

おにいさん、そういう期間って、ついつい忘れちゃうんだよね。

あゆこちゃん、期限が近づくと、市から更新の案内が届くから、心配いらないよ!!

おにいさん、なるほど。とっても安心な制度なんだね。誰でも利用することができるの？

あゆこちゃん、それなら厚木市都市農業支援センターと農地利用最適化推進委員が、農地の貸し手と借り手のマッチングの手伝いをするよ。

知らないと損する

国が支える 安心が大きくなる

担い手積立年金

詳しくは… [農業者年金基金](#) 検索
お手続きは、JAあつぎ本所、各支所
または、農業委員会事務局へ

- 1 農業に従事されている方は誰でも加入できます**
60歳未満の国民年金第1号被保険者(国民年金保険料納付免除者を除く。)であって年間60日以上農業に従事している方は誰でも加入できます。配偶者や後継者など家族農業従事者の方も加入できます。
家族一人ひとりの年金を! 今、女性の新規加入者が増えています
- 2 保険料は自分で選べ、いつでも見直しできます**
自分が必要とする年金額の目標に向けて、保険料を自由に決められ(月額2万~6万7千円の間で千円単位)、経営の状況や老後設計に応じていつでも見直せます。
- 3 税制面で大きな優遇措置があります**
 - 支払った保険料は、全額が社会保険料控除の対象となり、所得税・住民税が節税になります(支払った保険料の15%~30%程度が節税)。
 - 農業者年金基金が保険料を運用して得られる収益(保険料の運用益)は非課税です。
 - 将来受け取る農業者年金には、公的年金等控除が適用されます。(65歳以上の方は公的年金等の合計額が120万円までの場合は、全額控除できます。)

つまり入口から出口まで税制上の優遇措置があります



あゆこちゃん、それに利用権の手続きについても教えてくれるんだ。都市農業支援センターは、JAあつぎ本所の2階にあるから、一緒に行ってみよう!!

【問い合わせ先】
都市農業支援センター
〒221-5511
厚木市 224局 8414

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

毎週金曜日発行

月700円(送料込)

お申し込みは 農業委員会事務局へ

夢ある未来へ 第48回農業まつりで会長賞を授与

来場者数約7万5千人

昨年11月25、26日の2日間、厚木中央公園において、第48回厚木市農業まつり畜産祭・収穫祭が開催され、約7万5千人が来場し、大変な盛り上がりを見せました。



農産物品評会

農業委員会では、農家の方々の様々な工夫や研究を奨励し、皆さまに知っていただくため、熱意と創意工夫のある生産者に、会長賞をお贈りしています。

今回の会長賞受賞者の一人である小塩勝治さん(75才)にお話を伺ったところ、「地区の剪定講習会に参加し、技術を学んできたことが、今回の受賞につながりました。これからも技術の向上を図り、おいしい農産物を届けていきます。」と語ってくれました。



会長賞授与式の様子
(左) 堀池会長 (右) 小塩さん

受賞者の一覧

- 収穫祭** 小塩 勝治さん『キウイフルーツ』
柳下 昌代さん『みそ』
- 味覚祭** 山崎 健一さん『ナシ』
- 畜産祭** 乳牛の部 曾根 隆さん
種豚の部 古性 忠一さん

JAあつぎ 農業スクール開催

JAあつぎ玉川支所では、玉川地区在住の方を対象に、農業の楽しさを学んでもらうために、農業スクールを開催しています。

農業スクールは、今年も開催する予定です。興味のある方は、ぜひ参加してみてくださいいかがでしょうか。

【問い合わせ先】

JAあつぎ玉川支所
☎248局0316



サツマイモの収穫の様子

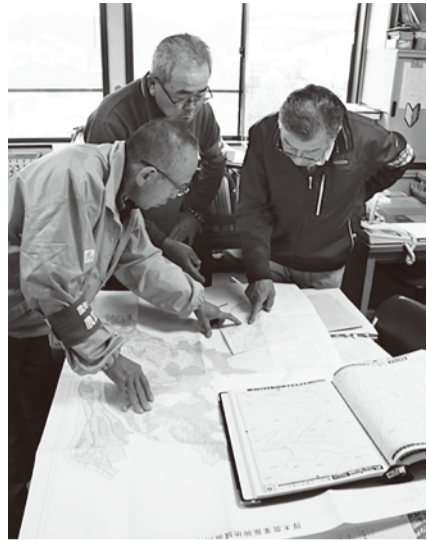


農業スクールほ場

農地パトロールを実施

昨年の8月と9月を農地パトロール強化月間とし、市内全ての農地を調査した結果、35・34の農地が遊休農地として判断され、昨年と比べ、1・99の減少となりました。

農業委員会では、農地の利用状況



農地パトロールの事前調査の様子

況を把握するため、年4回、各地区担当の農地利用最適化推進委員が中心となって、農地パトロールを実施しています。

このパトロール結果を基に、農地の適正な利用、担い手への農地の利用の集積・集約化を推進するため、11月に遊休農地の所有者に、利用意向調査を実施しました。

この調査で、所有者に遊休農地の今後の利用についてのお考えを伺い、その結果を踏まえて、都市農業支援センターや農地中間管理機構を紹介するなど、遊休農地の解消に役立てていきます。

農地利用最適化のための 意見・要望書を市長に提出

本農業委員会では、農業者の代表として、農業生産力の増大や農業に従事する者の地位の向上に寄与するため、施策及び予算について、毎年、意見・要望書を市長に提出しています。

平成30年度新規要望

◎昨年の生産緑地法改正を受け、市街化区域内農地の減少を防ぐため、下限面積を300平方メートルに引き下げるよう検討すること。

◎新たな担い手を増やすため、市内5大学に対してPRを行い、農業への興味を喚起するよう施策を講じること。

◎小型鳥獣による被害防止に有効な箱わなについて、台数を増やすなど、利用しやすいよう対応



すること。
その他、合わせて21項目の意見・要望を行いました。

都市農業振興計画の完成間近

本市農業の目指す将来像や、その実現に向けた方針を定める都市農業振興計画の策定が佳境を迎え、昨年9月、市内の各地区で農業者と行政による意見交換会が開催されました。

意見交換会の参加者は、延べ180人にのぼり、農業の六次産業化や遊休農地の増加に関する問題など、様々な分野について、意見を交わしました。

中でも関心を集めていたのは、後継者不足の問題です。新規就農者の支援制度の拡充や地域でのサポート体制の確立、農業のPR活動の活性化や新たな農業法人の設立など、幅広い意見やアイデアが出されました。

今後、1月4日から2月3日まで、パブリックコメントが実施され、その意見と合わせて、計画が策定されることとなります。



相川地区意見交換会

【問い合わせ先】
農業政策課

☎225局2800

南毛利公民館

温水西1丁目に位置する南毛利公民館では、毎年、コミュニティづくり推進事業実行委員と協力し、南毛利地区の小学4年生以上の児童を対象に、『もち米づくり体験学習』を行っています。



よく晴れた昨年6月4日には、第1回目となる田植えの体験が行われ、児童と保護者の合わせて約30人が参加し、慣れない農作業に戸惑いながらも、足をなでる泥の感触に歓声をあげていました。

地元の農家の方の協力の下、200結を超える収穫を終えたもち米は、11月23日に開催されたもちつき大会で参加者に振る舞われました。

約50人が参加したこの日は、きな粉やあんこ、ダイコンおろし、納豆など数種類のもちが用意され、子どもたちは何度もおかわりに並びました。

なかなか体験することのできない田植えからもちつきまでができるこの講座は、参加者から好評を得ています。

【問い合わせ先】
南毛利公民館

☎248局4309



Agriculture in Atsugiculture

愛甲小学校



愛甲小学校で、87人の児童たちが田植えと収穫の体験学習を行いました。

同校では、10年以上前から、農作物を育てる大変さとして収穫の喜びを学ぶため、毎年5年生を対象に、総合的な学習の時間において「お米を育てよう」というテーマで学習に取り組みんでいます。

昨年6月7日には、地元の有志の方で構成される愛甲小学校サポーター隊の田村健二さん(47才)方々の指導の下、食味ランキングで特Aの評価を受けた「はるみ」という甘みのある品種を植えました。

参加した児童たちは、水の冷たさに歓声を上げ、「初めて田んぼに入った。」と大興奮でした。

児童はもちろん、愛甲小学校サポーター隊やPTAの方々に見守られながら育ったお米は、昨年9月19日に収穫を行いました。収穫量は、84結となりました。

児童たちは収穫したお米をどうするかをみんなで話し合っている、食の大切さを学んでいる、ということ

児童たちがどのようがに学びを深めていくのか、楽しみです。



地元から安心を子どもたちにもたたちに

「おいしいね。」
あんかけ中華そばを頬張る子どもたちから声が聞こえました。この日の給食のあんかけ中華そばには、市内で採れた新鮮な野菜が使われ、小学校の教室に笑顔がこぼれました。

市内の全小中学校36校では、子どもたちの食に対する関心を高めるため、月2回、市内で生産された農作物を給食に利用する「パクパクあつぎ産デー」という取り組みを平成20年度から実施しています。

この取り組みは、地域の食材を活かした献立をつくることにより、子どもたちにおいて給食を提供するとともに、農業に関する歴史や文化を学び、地域の生産者や食べ物への感謝の心を育成することを目的に、教育委員会とJA



笑顔があふれる教室

あつぎが連携して行っています。厚木市の給食には、子どもたち自身とともに健康に育ってほしいという願いが、たくさん込められています。

ゆめみちゃん号



市民の皆さまに新鮮な農畜産物をお届けするため、JAあつぎ管内を週4日巡回します。(月・火・木・金)

| 月 | 火 | 木 | 金 |
|------------|----------|----------|----------|
| 南毛利 愛甲小 | 清川 川玉 | 陸依 依萩 | 合知 野 |
| 宮の里 小 | 宮の里 小 | 宮の里 小 | 宮の里 小 |

※スケジュールの変更や実施の見合わせが行われる場合があります。詳しい販売場所や時間は、ホームページ等でご確認ください。

【問い合わせ先】JAあつぎ指導販売部 ☎221局2273



JAあつぎホームページ



マスコットキャラクター ゆめみちゃん

農業塾のご案内



将来のあつぎの農業を担う方を対象に研修講座を開講します。

〈開講期間〉3月6日(火)～12月11日(火)

〈新規就農コース〉

市内の農地を利用して新たに就農を目指している方を対象に、実践的な講座とは場実習を通して新規就農者を育成します。

〈申込み方法〉

JAあつぎ本所にて、「受講申込書」と「営農計画書」を提出後、別日に、面接審査を実施します。受付日は1月15、16日です。詳細は、JAあつぎホームページへ。

〈問い合わせ先〉

JAあつぎ指導販売部
地域農業対策課 ☎221局2273

東京農業大学の収穫祭が、昨年11月4、5日の2日間にわたり、開催されました。船子に位置する厚木キャンパスは、昭和35年に厚木中央農場として設置され、現在では、18万平方メートルの敷地に、多彩な農業施設や最先端の研究施設、実験ほ場、温室等が配置され、約2600人の学生が実学主義の下、学んでいます。

同大学は、昨年創立126周年を迎え、厚木キャンパス収穫祭は18回目の開催となる歴史ある行事となっており、たくさんの方々が、毎年、この日を心待ちにしています。



収穫を待つダイコン畑



収穫祭当日のキャンパス

【問い合わせ先】
東京農業大学厚木キャンパス
学部長事務室

☎270局6670



ダイコン収穫体験の様子

